

台湾における「芸術と人文」科目の美術分野の内容について

福田隆真 劉 佳雯*

On the New Subject “Arts and Human Science” in Taiwan

FUKUDA Takamasa and LIU Chan Wen

(Received October 1, 2004)

はじめに

台湾は小学校においては2001年から、中学校においては2002年から教育課程の改訂が行われ、美術教育においても「芸術と人文」という教科名に改訂されて2004年9月から実施されることになった。台湾の学校教育における美術教育について、筆者は初等教育の教材について既に報告した。^(注1) また、台湾の美術教育の動向については、宇都宮大学の石崎和宏氏が教育課程を中心に報告している。^(注2)

台湾の教育改革では小学校と中学校を一貫とした九年一貫の教育課程が特色である。また、美術教育においては教科内容の統合によって新しく設置された「芸術と人文」教科が特色となっている。本稿では主としてこうした教育改革の一環である九年一貫の教育課程と新しい教科「芸術と人文」の内容を紹介し、美術教育の動向について考察を試みる。

I 教育課程の背景と改訂

21世紀に向けて、台湾は教育改革を準備して実践してきた。ここでは改革のための背景と改革の概要を述べる。

1 教育改革のための背景

21世紀に向けて、台湾の国民の素質が向上するように、そして国家の競争力を高めるため、政府は教育改革に尽くさなければならない。教育部が行政院から定めた「教育改革行動方案」に基づいて、教育の各段階のカリキュラムと教学（教授・学習）の革新を行う、さらに、学校の教育が核心とする課程と教材を制定し、教師の専門活動に基づいて九年一貫課程の計画と実施を主要な任務とする。課程改革の主な背景は以下のように説明されている。^(注3)

(1) 国家の発展の需要

台湾の社会は、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心が高まり、高齢化・少子化などの様々な面で大きく変化しており、これらの変化を踏まえた新しい時代の教育の在り方が問われている。そのために、教育課程の改革の中で、絶えず検討して、優れた学校の文化と教育の成果を創造し、国家の発展を促進することが重要である。

(2) 社会からの期待への返答

近年、社会から学校教育の改革に期待の声が高まり、教育改革の審議委員会が提出した教育改革の最終答申書で、民意の反応があり、社会からの期待に答えるため、新しい理念の課程教

* 山口大学大学院教育学研究科修士課程美術教育専修

育の改革を必ず行わなければならない。

課程と教学（教授・学習）の改革を行い、早めに英語の学習を導入し、学生が基本能力を身に付けることなどの意見が盛り込まれた。そのうえ、新しい理念の課程改革を進行し、社会的期待に応じえる必要がある。今回の課程の改訂は三つの段階を分けて行われた。各段階は以下である。

- ① 第一段階：「国民中小学校課程発展専案小組」（小中学校の課程発展のための専門家の調査会）が成立した。（1997年4月～1998年9月）
 1. 小中学校課程の発展と改訂の共同原則が研究されたこと。
 2. 小中学校課程の共同性の基本枠組みが討論されたこと。
 3. 小中学校課程の学習領域、授業時数の比率などの課程構造が研究されたこと。
 4. 「国民教育九年一貫課程」総合綱要（総綱）が完成されたこと。
- ② 第二段階：「国民中小学校各学習領域綱要研修小組」が成立した。（1998年10月～1999年11月）
 1. 「国民教育各学習領域課程要綱」を制定されたこと。
 2. 各学習領域の教学（教授・学習）目標、能力指標の養成を確定すること。
 3. 各学習領域課程の実施原則を制定すること。
- ③ 第三段階：「国民中小学校課程修訂審議委員会」が成立した。（1999年12月～2002年8月）
 1. 各学習領域課程要綱の内容の適切性を確認し、審議すること。
 2. 小中学校の課程要綱の公布形式や実施要点を確認し、審議すること。
 3. 新課程における教科の内容のバランスを取り促進することを確認し、審議すること。

2 教育課程の基準について

台湾において、教育課程について従来は教育部（文部科学省）が「課程標準総綱」や「各教科の課程標準」を定めていた。それらは教育目標や授業時間数を規定し、各教科の目標、時間配分、教材内容、実施方法を定めたものである。これらは法的な拘束力を持ったナショナル・カリキュラムである。しかし1997年以降は教育改革により教育課程の弾力化が図られてきた。その結果、2000年に「小中学校九年一貫課程綱要」（国民中小學九年一貫課程綱要）が公布され、教育課程の方針と具体化が示された。

課程標準は標準から大綱に改称され、教育課程をガイドラインとして弾力化を図ってきた。そして、教育課程の編成や学習計画は、教師、学校、地方の教育委員会に大きく委ねることになった。さらに義務教育期間はその繋がりを教科するために九年一貫の教育課程として捉えるようにした。

「小中学校九年一貫課程綱要」の「改訂の課程と特色」には、この課程綱要の特色が次のように示されている。^(注4)

- ① 教育課程の編成は、国民が必要とする基本能力を培うことに重心を置く。
- ② 従来の教科に代えて学習領域を設定し、統合的な教育課程へと移行する。
- ③ 学校を中心とした教育課程の発展のために、学校と教師に自主的な指導の権限を与える。
- ④ 教科書に依存せず、児童生徒の関心や能力を応じて、教材や授業を組み立てていくことが重要である。

- ⑤ 課程、指導、評価を緊密に連携しなければならない。
- ⑥ 国際化の傾向に対応して、小学校5学年から英語などの外国語教育を導入する。
- ⑦ 児童生徒の負担を軽減するため、各学年の授業時間数を減らす。
- ⑧ 従来の中央集権式の教育課程から解放させ、教師や学校、地方などに権限を与える。

こうした綱要に基づいて、美術教育は総合的な扱いがなされ「芸術と人文」という科目が新しく設置された。それによって従来の小学校の「美勞」と中学校の「美術」は教科として消えた。

II 九年一貫教育の内容

台湾の今回の教育改革の特色の一つは小学校と中学校を連続して考える九年一貫教育である。以下では、資料に基づいて基本理念、目標、学習領域、実施要点について述べる。

1 基本理念

教育の目的として人民の健全な人格、民主的素養、法治観念、人文教養、強健の体及び思考、判断と創造能力などを養成し、国家意識と国際視野の現代国民を目指している。この基本理念は以下である。^(注5)

- ① 人本心持方面：自分を理解し、他人や違い文化などを尊敬し、鑑賞すること。
- ② 統合能力方面：理性や感性の調和し、知や行の合せ、人文と科学技術の整合などのこと。
- ③ 民主素養方面：自分なりの思考、コミュニケーション、社会貢献、法律を守るなどのこと。
- ④ 郷土と国際の意識方面：郷土愛、愛国心、世界観など（文化と生態）のこと。
- ⑤ 終身学習方面：主動探究、問題解決、情報や言語の運用などのこと。

2 課程目標・基本能力

教育課程の目標と基本能力について以下のように示されている。^(注6)

国民小中学校の課程理念は日常生活を中心として、心身能力の発展の過程を配合することである。さらに、個性を伸ばし、個人の才能を養成し、民主的素質を養い、多文化の価値を尊重し、科学の知識を培い、現代生活のために生きるようにする。また、この課程の目標を達成するため、国民教育段階の課程設計に依拠して、学生は主体的に生活経験を重視し、現代国民の基本能力を養うべきである。内容は以下の項目である。

- ① 自分を理解し、潜在的能力を発揮させる。
- ② 鑑賞、表現、審美及び創作の能力を培う。
- ③ 生涯計画、終身学習の能力を向上する。
- ④ 表現、コミュニケーション、喜びなどを分かち合うことを養う。
- ⑤ 他者を尊重し、社会に関心を持ち、結団する精神を高める。
- ⑥ 文化学習と国際理解を促進する。
- ⑦ 企画、構想、実践の能力を促進する。
- ⑧ 科学技術と情報を運用させる。
- ⑨ 自主的探索と研究の精神を育成する。
- ⑩ 独立思考と問題解決能力を養成する。

3 学習領域

国民の基本能力を培うため、国民教育段階の課程に応じて、個人の発展、社会文化及び自然環境などの三つ側面、「言語」、「保健と体育」、「社会」、「芸術と人文」、「数学」、「自然と生活科学」及び「総合活動」など七つの学習領域から身に付ける。

配置されている学年

「芸術と人文」の学習領域は、小学校3年から中学校3年までに設けられている。この領域には、視覚芸術、音楽、演劇が含まれている。視覚芸術は、教科名ではないが、日本の図画工作や美術に相当するものといえる。そして、小学校の1～2年の低学年においては、「芸術と人文」は、「社会」ならびに「自然と生活科学」と共に「生活」の学習領域の中に統合されている。

小中学校九年間一貫の教育課程では、それぞれの領域に段階構造が設定されている。「芸術と人文」の場合は、四つの段階が定められ、第1段階は小学校1～2学年（「芸術と人文」は「生活」に統合されている）、第2段階は小学校3～4学年、第3段階は小学校5～6学年、第4段階は中学校の3年間（7～9学年）である。

なお、現在の高校の教育課程では、1学年と2学年に必修の美術科が設けられている。

表1 各学年における学習領域とその段階構造

	一	二	三	四	五	六	七	八	九
言語	国文		国文			国文			
					英語		英語		
保健と体育	保健と体育		保健と体育			保健と体育			
数学	数学		数学			数学			
社会	生活		社会		社会		社会		
芸術と人文			芸術と人文		芸術と人文		芸術と人文		
自然と生活科学			自然と生活科学		自然と生活科学		自然と生活科学		
総合活動	総合活動		総合活動		総合活動		総合活動		

4 実施要点

小中一貫教育課程の授業時数の取扱いでは、年間の授業日数は200日（祝日を除く）とされ、二つの学期でそれぞれ20週間ずつ、そして毎週5日間の授業日数を原則的に行うこととされている。毎週の授業時間数については、「領域学習にあてる時間数」（領域学習節数）と「弾力的に運用できる学習の時間数」（弾性学習節数）が示されている。（表2参照）1単位の授業時間は、原則として40～45分と設定されている。各領域学習の時間数については、「言語」（国語、英語を含む）が20%～30%、「芸術と人文」、「保健と体育」、「社会」、「自然と生活科学」、「数学」、「総合活動」がそれぞれ10%～15%というように割合が示されている。したがって、「芸術と人文」には、総授業数の10～15%をあてるという割合が明記されているが、「芸術と人文」の中に含まれる視覚芸術にあてる授業時数については特に定まっていない。なお、「弾力的に運用できる学習の時間数」の取扱いについては、各学校の実態に応じて自主的に多様な学習活動を

企画するものにあてることが示されている。

また、高校の美術科では、現在、従前のままであり、第1～2学年に毎週1時間（50分）があてられている。

表2 各学年の授業時間数*

	合計授業時間数（毎週）	領域学習の時間数（毎週）	弾力的に運用できる学習の時間数（毎週）
一学年	22-24	20	2月4日
二学年	22-24	20	2月4日
三学年	28-31	25	3月6日
四学年	28-31	25	3月6日
五学年	30-33	27	3月6日
六学年	30-33	27	3月6日
七学年	32-34	28	4月6日
八学年	32-34	28	4月6日
九学年	33-35	30	3月5日

Ⅲ 教育課程の新旧比較

教育改革の内容は多くの面での変化をもたらしている。以下に、従来の教育課程と新しい教育課程について、課程の設計、目的、目標、基本能力、授業時間、教材選択における変更点を比較をする。^(注7)

小中学校の現行課程綱要と従来課程標準の比較：

課程の設計：

新) 小中学校の課程綱要を一貫で設計する

旧) 小学校と中学校の課程標準を分けて制定する

(1) 目的の比較：

新)

教育の目的として人民の健全な人格・民主的な素養・法治観念・人文教養などを培い、思考能力・判断力と創造能力などを養い、国家意識と国際視野の現代国民を目指している。

旧)

小学校：生活教育と人徳教育を中心とし、徳、智、体、群（集団）、美の五育均衡の発展を培い、活発な児童と健全な国民を養う。

中学校：生活教育と道徳教育及び民主法治教育を中心とし、徳、智、体、群、美の五育均衡の発展を培い、楽観的である青少年と健全な国民を養う。

(2) 目標の比較：

新)

① 自分を理解し、潜在的能力を発揮させる。

- ② 鑑賞、表現、審美及び創作の能力を培う。
- ③ 生涯計画、終身学習の能力を向上する。
- ④ 表現、コミュニケーション、喜びなどを分かち合うことを養う。
- ⑤ 他者を尊重し、社会に関心を持ち、結団する精神を高める。
- ⑥ 文化学習と国際理解を促進する。
- ⑦ 企画、構想、実践の能力を促進する。
- ⑧ 科学技術と情報を運用させる。
- ⑨ 自主的探索と研究の精神を育成する。
- ⑩ 独立思考と問題解決能力を養成する。

旧)

小学校：

- ① 勤労、実務に励む、責任感と法律を守る及び家族愛、郷土愛、愛国心、世界愛の情操を培う。
- ② 自己理解、環境認識、社会適応能力などの基本知識を身に付ける。
- ③ 規則正しい生活習慣、肉体鍛錬、空き時間の有効利用など健全な心身を促進する。
- ④ 団結する精神を培い、社会貢献を熱心に行う。
- ⑤ 審美と創作能力を培い、生活を楽しむ。
- ⑥ 自主的に学習、思考、創造及び問題解決の能力を身に付ける。
- ⑦ 価値判断の能力を培い、プラス思考の精神を向上させる。

中学校：

- ① 自己と他人の尊敬を培い、勤労及び責任感を持つ態度と民族意識及び家族愛、愛国家の情操を養成する。
- ② 創造、理論的な思考と価値判断の能力、問題解決能力、社会の変化に対応する知識、終身学習の態度を養う。
- ③ 健康な体を鍛える及び意志が強くて、正当な娯楽活動の知識を培い、心身の成熟と健康を増進する。
- ④ 互いに助け合う民主法治の精神を培い、集団的に平和を増進する。
- ⑤ 審美と創作能力を増進し、命の大切さと自然環境を保護する態度を培い、生活の意義と興味を増進する。

(3) **基本能力の比較：**

新)

- ① 自分を理解し、潜在的能力を発揮させる。
- ② 鑑賞、表現、審美及び創作の能力を培う。
- ③ 生涯計画、終身学習の能力を向上する。
- ④ 表現、コミュニケーション、喜びなどの分かち合うことを養う。
- ⑤ 他者を尊重し、社会に関心を持ち、結団する精神を高める。
- ⑥ 文化学習と国際理解を促進する。
- ⑦ 企画、構想、実践の能力を促進する。
- ⑧ 科学技術と情報を運用させる。
- ⑨ 自主的探索と研究の精神を育成する。
- ⑩ 独立思考と問題解決能力を養成する。

旧)

未制定。

(4) 授業時間の比較：

新) 授業時数の1単位時間は、原則として40～45分と設定される。

旧) 小学校：授業時数の1単位時間は40分と設定され、授業前20分で担当先生の時間である。

中学校：授業時数の1単位時間は45分と設定され、授業前20分で担当先生の時間である。

授業時間数：

新)

各学年の毎週の授業時数：

- ① 一学年：22
- ② 二学年：22
- ③ 三学年：26
- ④ 四学年：26
- ⑤ 五学年：28
- ⑥ 六学年：28
- ⑦ 七学年：30
- ⑧ 八学年：30
- ⑨ 九学年：30

総授業時数類別の比率：

- ① 基本授業時数：総授業時数80%を占める。
- ② 弾性学習時数：総授業時数20%を占める。

旧)

小学校の毎週の授業時間数：

- ① 一学年：26
- ② 二学年：26
- ③ 三学年：33
- ④ 四学年：33
- ⑤ 五学年：35
- ⑥ 六学年：35

中学校の毎週の授業時間数：

- ① 一学年：33-34
- ② 二学年：35-36
- ③ 三学年：30+(5)-33+(5)

() 個別の相違教学時間を実施される。

小学校：総授業時数類別を区別しないが、各学校は実際的な需要の状況によって、各学年に1単位を増えるよう弾性時間を応用する。

中学校：総授業時数の類別を区別しない。

(7) 教材選択の比較：

新)

多元化教材：審査に合格した教科書、単元式教材、現行出版品、マルチメディア教育、地方政府の開発教材、学校が編集した教材、教師講義などの多元化教材で授業を行う。

旧)

- ① 小学校、主に各学科の教科書として課程標準を規定する。
- ② 小学校各科：審査規定した教科書を使う。

中学校の一般学科：部編本教科書

中学校の芸能学科：審査規定教科書

Ⅳ 台湾の美術科教育「芸術と人文」の教育課程における目標

新しい教育課程で制度や教科内容が変わってきたが、美術教育にとっては大きな変化を遂げてきている。従来までのように美術教育の内容が単独の教科として取り扱われるのではなく、芸術や人文の内容と統合されて教科として扱われるようになった。このことは一大変革であろう。以下には新しい教科として発足した「芸術と人文」の目標において、基本理念、課程目標、段階的能力の目標について述べる。^(注8)

(1) 基本理念

「芸術と人文」は、つまり「芸術を通して、人文の素養を培う芸術学習の過程のことである。」この教科の本来の学習範囲は視覚芸術、音楽、実演芸術などを含み、人格などを、全体的、健康的に発展させるために学生の芸術に関する能力また芸術活動、芸術鑑賞のレベルを向上させるものである。

芸術は人類文化の結果、また生活のなかで重要な一つであり、感性教育の根本である。芸術は専門的言語であり、非正式の文章を通して人類の直感、推理、感想また想像力などの能力を作り出し、また知識を得て価値観を確立することができる。すべての人が芸術の言語を学習することによって芸術的経験を得て世界のことを知ることができる。

美術や音楽を統合した全面的な芸術教育をすることによって、児童と青少年が、音楽、舞踊、演劇また視覚芸術などの活動の中で、芸術に対する自分の感情、分析、理解、批判と評価をすることができ、芸術作品の文化的背景と意味を認識することができる。そのことは他の学習にも役に立つ。「芸術と人文」の教育は技術教育や狭い分野の教育から徐々に離れて、もっと自主的で、開放的、全方位的な芸術の学習になる。

芸術の源は生活にあり、芸術と生活は融合している。そこで芸術教育は学生に生活環境における人と物の関係、また様々な芸術品、品物と景色の関係を提供するによって、時代、文化、社会、生活と芸術の関係を理解することができる。また、様々な芸術の表現方法を勉強させ、自分の経験と想像力を生かして生活と心を豊かにする。

新しい世紀を越えて、教育方針は人の生命を重視し、生活を中心にし、人間関係の発展を促し、現代文明と芸術と人文の全面的多元化を表わしている。「芸術と人文」の学習は学生の芸術と人文の基本的内容を得ることができ、新しい芸術を創造することによって、国民のレベルも向上し、尊敬される文明を作り出すことができる。

(2) 課程目標

1. 探究と創作：

学生は自己探究、環境と個人の間を認知し、メディアと形式を使って、芸術表現を行い、生活と精神を豊富にする。

2. 審美と理解：

学生は鑑賞と文化活動を通して、様々な芸術価値を認識し、芸術作品のスタイル及び

文化の脈絡を理解し、さらに多元的文化の芸術活動に熱心に参加するようにする。

3. 実践と応用：

学生は芸術と生活の関連を理解し、芸術活動を通して環境を知覚する；芸術の職業を認識し、芸術の視野を広げる、芸術創作を尊重し理解し、生活の中に実践する。

(3) 段階的能力の目標

<番号の説明>以下、「A－B－C」の番号の中で、Aは目標；Bは学習段階、「学年枠の第一段階（1－2学年）、第二段階（3－4学年）、第三段階（5－6学年）、第四段階（7－9学年）に分けて示されている」；Cは通し番号を表す。

①第一段階（1－2学年）

○探究と創作

1-1-1 様々なメディアの試作を通して、豊富な創造力を引き出す。さらに、視覚、聴覚、触覚などを通して芸術活動を行う。創作の喜びと満足を体験する。

1-1-2 視覚、聴覚、触覚の芸術創作を運用し、自分の受け止め方と考え方を表現する。

1-1-3 メディアと芸術形式の結合を使用し、芸術創作の活動を行う。

1-1-4 正確、安全、有効に道具を使い、芸術創作と展開活動を行う。

○審美と理解

2-1-5 様々な自然物、人工物と芸術作品に触れ、審美感を体験する。

2-1-6 様々な色、画像、音声、メロディー、姿勢、表情などの美感を体験し、自分の感覚を表現する。

2-1-7 地域の芸術活動に参加し、自分の生活環境の芸術文化を認識し、芸術と生活の関係を体験する。

2-1-8 生活周辺の様々な芸術創作を鑑賞し、様々な文化の特徴を体験する。

○実践と応用

3-1-9 芸術創作を通して自分と他人また自分と自然と環境の間の関連を感じる。

3-1-10 芸術活動や芸術の実演を鑑賞する時に、マナーや態度を身に付ける。

3-1-11 芸術創作の形式あるいは作品などを運用しながら、楽しく生活を過ごす。

②第二段階（3－4学年）

○探究と創作

1-2-1 様々なメディアや形式を実験的に体験し、異なるメディアや技法による様々な効果を理解し、創作活動を行う。

1-2-2 様々な芸術創作を試み、豊かな想像力や創造力を表現する。

1-2-3 芸術創作の活動に参加し、自分自身の方法で技法や感覚を獲得する。

1-2-4 視覚、聴覚、感覚の創作を活かして事物や感情を記録し、表現する。

1-2-5 チームで分担、計画などの芸術創作活動を行う。

○審美と理解

2-2-6 様々な自然物や人工物、芸術品の美しさを鑑賞する。

2-2-7 友達の作品を鑑賞し、それぞれの美的特徴を述べる。

2-2-8 地方の芸術文化の活動に参加し、自分の地域の芸術文化をもっと理解する。

2-2-9 生活周辺における遺跡や民芸記念物の鑑賞を楽しむ。

○実践と応用

3-2-10 地域の生活芸術を認識し、自分の方法で生活の中に取り入れる。

3-2-11 芸術創作の活動と作品を運用し、生活環境と人の心を進化する。

3-2-12 鑑賞と討論を通して台湾の芸術を認識し、先祖からの様々な芸術成果を尊重する。

3-2-13 芸術活動を鑑賞する時、正しい礼儀と態度を身に付け、鑑賞を通して感性を身につける。

③第三段階（5-6 学年）

○探究と創作

1-3-1 各種の芸術創作の方法を探究し、創作的な想像力を表現する。

1-3-2 芸術創作の主題や内容を構築し、適切な媒体や技法を選び、感情や経験や思考で満たされた作品を完成する。

1-3-3 様々な芸術形式を通して、自分の特質を表し、自己分析し、評価する。

1-3-4 様々な芸術創作の方法を探究し、他人の作品を理解して、自分自身の思考と表現力を育てる。

1-3-5 技術と連結し、新しい創作の経験と形式を開発する。

○審美と理解

2-3-6 説明、分析、討論の方法を通して、自然物や人工物や芸術品の美的特徴や視覚的要素を認知する。

2-3-7 環境と生活との関わりを認識し、芸術表現における環境からの影響を問い直す。

2-3-8 視覚芸術の専門用語を正確に使用し、自分と他人の作品の特徴を説明して価値判断する。

2-3-9 討論、分析、判断などの方法を通して、自分の芸術創作に対する審美経験と見解を表す。

2-3-10 芸術活動に積極的参加し、異文化の特徴や文化背景を比較する。

○実践と応用

3-3-11 正しい態度と気持ちで様々な芸術活動を鑑賞する。

3-3-12 多様な方法によって視覚芸術の情報を収集し、その習慣を養成する。

3-3-13 豊富な芸術知識で設計、企画しながら生活空間を改造する。

3-3-14 テーマを選択し、生活環境に芸術品を収集し、例えば、純粹芸術、商業芸術、生活芸術、民俗芸術、伝統芸術などを日常生活の一部とする。

④第四段階（7-9 学年）

○探究と創作

1-4-1 各種の芸術創作の方法を探究し、創作的な想像力を表現する。

1-4-2 芸術創作の主題や内容を構築し、適切な媒体や技法を選び、感情や経験や思考で満たされた作品を完成する。

1-4-3 様々な芸術形式を通して、自分の特質を表し、自己分析し、評価する。

1-4-4 様々な芸術創作の方法を探究し、他人の作品を理解して、自分自身の思考と表現力を育てる。

○審美と理解

2-4-5 様々な自然物、人工物、芸術品を鑑賞し、美的認知や判断をする。

2-4-6 各様式における創作品、媒体の構造、象徴と思想を比較分析する。

2-4-7 芸術と現代芸術を感じ、精緻な芸術と一般的な芸術の風格の違い、異なった時代や社会

の芸術生活や価値観を体験する。

2-4-8 芸術と科学技術との関わりを考え、芸術における環境や資源からの影響を吟味し、建設的な見解を提出する。

○実践と応用

3-4-9 日常生活の中に芸術表現と鑑賞の興味や習慣を養う。

3-4-10 計画的な創作と活動を通して、合作、尊重、秩序、コミュニケーション、協調性などの精神や態度を主体的に養う。

3-4-11 自己の性格と興味と能力に適した芸術活動を選んで、学習を続ける。

V まとめと問題点

以上は、台湾における教育改革と美術教育の概要を述べた。台湾における今回の教育改革は美術教育にとっては大きな変革である。改革以前は、小学校では「美勞」中学校では「美術」として単独に教科として存在していた。しかし今回の改訂では、芸術表現に関わる内容と人文的内容が統合された。そのことによって教育実践の場では評価される特色と改善を必要とする問題点が生じてきているように思われる。以下に簡略にそれらを述べる。

1 知育重視からバランスある教育内容へ

教育改革以前は一元化の教育方法が採られ、特に、学生に対する教育は知育が重視されていた。今回の改訂により、人間の全面的発展を想定して、知育だけでなく、体育、徳育、集団教育、美育のバランスある発展がなされるように改訂された。

2 教師の力量の向上

改革の後には、学校の自主的な裁量権が増えたことにより、教師は主体的自主的に教育に対する能力の研磨に努めるようになり、その結果として教師の力量が向上した。また、教育方法は教科書に頼るだけでなく、教師の教材研究や教育方法の開発に委ねられている。そのことにより、画一的な授業から多様性のある授業へと変化しつつある。

3 教育課程の弾力化

教育改革によって教育課程はガイドラインとなり弾力化が図られた。そのことにより美術の教育も多様な表現方法や表現分野を育むことが可能となった。

4 美術と音楽の協力

改革後は音楽と美術の教師の協力が必要となり協力体制が形成された。また、授業の実施等において、美術と音楽の分野が共同でプログラムの作成を行うようになった。

5 教師の問題点

改革後は小学校において「芸術と人文」の教科を担当する教員の研修が実施されたが、3日間という短い期間なので、教科を担当するには不十分である。また、中学校においては、「芸術と人文」教科は美術と音楽の教員が担当しているが、身体表現などの表現分野の力量が不足しているのが現状である。2に述べたように教師の力量が向上する場合もあるが、多くは教師の教授内容が過剰と問題点を残していると考えられる。

注

- (1) 福田隆眞 劉佳雯 「台湾における初等美術教育の教材について」 山口大学教育学部研究論叢 第53巻 第3部 2003
- (2) 王文純 石崎和宏 「台湾」(国立教育政策研究所「教科等の構成と開発に関する調査研究」

研究成果報告書(6)図画工作・美術のカリキュラムの改善に関する研究－諸外国の動向－)
収録2003年

- (3) 「修訂背景」 (<http://teach.eje.edu.tw/9CC/brief/brief1.php>)
- (4) 「修訂課程及特色」 (<http://teach.eje.edu.tw/9CC/brief/brief7.php>)
- (5) 「基本理念」 (<http://teach.eje.edu.tw/9CC/brief/brief2.php>)
- (6) 「課程目標」 (<http://teach.eje.edu.tw/9CC/brief/brief3.php>)
- (7) 「新舊課程比較」 (<http://teach.eje.edu.tw/9CC/brief/brief8.php>)
- (8) 「芸術與人文」 (<http://teach.eje.edu.tw/9CC/fields/2003/artHuman-source.php>)